

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて著たいたい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分が住みたいホーム、自分の家族を住ませたいホーム」の理念を研修にて確認している。また定期的な会議の中でもご利用者様の意向を確認して実践につなげられるようにしている。	「自分が住みたいホーム等」の理念は研修や日頃の会議の中でも意識の共有をしています。具体的には、利用者が冗談を言い楽しく感じ、美しい花を見て笑顔になれる、そんな時間を提供できるよう支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において地域の活動が無くなっており、本年度については交流はほとんど出来ていません。	コロナ前は、地域の民生委員の参加を得て施設の庭の梅を利用した梅干し作りや運営推進会議メンバーの協力を得た消防訓練などを実施していました。しかし、今年度はそれらの交流を行うことはできませんでした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで行ってきた認知症カフェについても自粛要請が続いており実施できていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については顔を合わせての開催は見送っている。書面での開催にてご意見を頂戴しています。	会議は自治会長、民生委員等へみかんの樹新聞を同封した書面により開催しています。4, 5名からコロナ禍での施設の業務負担に対する労い、励ましの声を頂いていてそれらは議事録に掲載し送付しています。	コロナ禍の先が見えない現段階で、文書以外にリモートによる開催など検討するのはいかがでしょうか？実現すると、他にも利用方法があると思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ対策に関して高齢者福祉課、包括支援課等とご連絡、やり取りを行う機会となっています。	コロナ対策について高齢者福祉課、包括支援課と連携をとっています。生保受給者が3名いて、その関係では、入退院等固有の問題での連絡の必要があり、また、半年に1回は状況確認の連絡があります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・事故・ひやり検討委員会を3か月ごとに開催しています。同様な事故が繰り返し起こらないようスタッフのケアについて声を掛け合い改善に努めています。	左記委員会で日中自室に戻った後体調不良の発見が遅れた事例があり、改善策として、利用者の居場所と体調の確認を申し送り時以外の10時15時にも行う事にしました。玄関は施錠せずセンサーで対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の身体拘束・虐待についての研修をしております。事故防止の観点に偏れば身体拘束になってしまうことも考慮して、支援内容について検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて著たいしたい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様の中で成年後見人制度を利用している方がおり、身近に感じ制度について学ぶことが出来ていると感じております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族様だけでなく可能であればご利用者様にもご同席頂き契約内容、生活の見通しなどをご説明させて頂いております。実際に利用が始まってからも相談、質問をして頂ける関係づくりに努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様にご要望、ご不満がないかについて日常的に確認させて頂いております。本年度についてはご家族様に実際にご来訪頂くことがコロナ禍で難しかったですが、お電話等にてご連絡を頂いております。	利用者の要望、不満等については日常的にその意向を確認しています。家族については、コロナのため電話での意見聴取でしたが、その中で入居直後の利用者の喫煙、飲酒等の習慣を電話で聞きその後の支援の継続に繋がった例があります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている事業所の全体会議に必要に応じて代表者、本社の職員が参加することで、直接意見を聞く機会となっています。	毎月全体会議を行い、そこへは必要に応じ代表者、本社の職員が参加し職員から直接意見を聞く機会になっています。管理者は通常でも職員個々から意見、要望を聞くようにしています。代表者個人の携帯番号も明示して連絡ができるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や普段顔を合わせたタイミングにて職員の勤務状況について声をかけ、働き方への希望の確認を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	普段の業務や会議において、困っていることや改善についての意見などを確認し、面談を通じて個人として解決できるようにするとともに、研修を行って事業所全体としても改善に向けて話し合いを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	対面での相互交流はしづらい環境となっている。これまで運営推進会議で交流していた事業所様とは文書でのやり取りをしている。また、グループホーム連絡会からの情報共有などを通じコロナ対策に生かすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて著たいしたい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様が心地よく住みやすい場所となるようにお話を伺っている。本年は喫煙、飲酒習慣のあるご利用者様が入居されており、医師とも相談して継続出来るようにしてきました。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様がどのようにお過ごしになっているのか写真入りのお便り、お電話等にてやり取りをさせて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	目立支援を原則とし、ご本人様が行えることを見極めてスタッフ間で情報を共有しています。 高齢となり膝や口腔内に痛みを訴えられる事もあります、ご本人様ご家族様の意見を踏まえ医療と連携しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に炊事、洗濯などを一緒に行っています。また、実際には行うのが難しくなった場合でも近くでお話をしながら行っています。 毎朝の新聞をお読みになっているご利用者様に今日の天気をお話して洗濯物を外に干すか決めたり、掲示している日付を交換してもらったりするなどしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様がお困りになっているであろうことを共有させて頂き、ご家族様が思われる意見を頂戴するとともに解決策について力をお借りしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の団地にお住まいであった方が入居されており、使用されていたコンビニなど団地の商店街のお店などに行けるよう支援させて頂いています。	家族からの電話の際は電話を取り次ぎ会話をしてもらいました。また、過去に系列のデイサービスを利用した利用(入居)者と、当施設の庭の畑を耕作に来る旧知で現在のデイサービス利用者との交流もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が出来ることを一緒に行えるようにご支援させて頂いております。関係性からか「〇〇さんがいるなら起きて皆のどこに行こうかな」と活動が増えているご様子が見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて著たいしたい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去される以外にご利用者様のご退居は本年度ありませんが、メール等でのやり取りにてご様子を伺っておりました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念である「私が住みたいホーム」は、ご利用者様本位であり、昔の思い出話などを伺った時には申し送りにて共有しています。困難な場合には快、不快に感じることを表情やご様子の変化感じ取るようにしています。	「自分が住みたいホーム」の理念は、利用者本位であることが前提と理解しています。ですから利用者から想い出話を聞いたときなどはそれを共有しています。表現が困難な利用者の場合、様子や表情の変化から感じ取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居の際にご本人様やご家族様に伺うのはもちろん、ケアマネにも確認して生活のご状況を確認しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方にとって心地よい過ごし方はどのようなものか考え、職員本位にならないように留意しています。折を見てテーマを決めて会議にて話し合っており直近では個別の快適な入浴の時間帯について検討しました。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーのみならず介護スタッフにアセスメント、ご本人様の意向の確認をお願いして、それぞれの視点で意見を出してもらるようにしています。	介護計画は、マネージャーだけで作成するのではなく、アセスメントや本人の意向の確認をした上、スタッフの意見も踏まえて作成しています。更新は、3か月、6か月とありますが、ほぼ同様な手順を経ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、ケース記録にて各自出勤時に確認するようにしております。申し送り時に話し合いをしてケアの工夫を実施し、実施結果を申し送る等しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自社デイサービスにてスーパーの移動販売車を呼ぶ取り組みをしており、コロナ禍で外出、買い物の機会が少なくなっているご利用者様のご要望に応えられるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて著たいしたい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントの機会は無くなってしまっていますが、散歩で公園やコンビニなどへ行っ て季節を感じたり気晴らしをしたりしていま す。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きなが ら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にこれまでの掛かりつけを継続する か、協力医療機関の利用をするかについて メリットデメリットをご説明しております。これ まで独居で難しかった歯科も訪問にて治療 が進められるとのことでは喜ばれている事例も ありました。	協力医療機関かまがや在宅診療所との連携 で365日、24時間の連絡体制を確保し、健康 上の管理に対応しています。 寒竹ファミリー歯科の訪問治療は喜ばれてい る事例があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて 相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受け られるように支援している	週に1回看護師に来ていただき、ご利用者様 の変化などについて共有し支援してもらって おります。訪問診療時の看護師とも相談、ア ドバイスを頂いて適切なケアが行える様にし ております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを 行っている。	本年度では3名の方が入院、治療となってお りますが、入院先の相談員等と連絡を取ら せて頂き治療、入退院がスムーズに行える ように情報提供をしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で できることを十分に説明しながら方針を共有し、地 域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事が減っているといったご利用者様に あった変化についてはご家族様に報告をさ せて頂き、必要に応じて医療職から説明をし て頂ける機会をもてるようにしております。 入居時には重度化や終末期での事業所で 行えることなどご説明しております。	看取り介護計画を作成し、入居時に重度化や 終末期に向けた事業所の取り組みを説明して います。利用者の大きな変化、急な変化が あったときは、電話やメール等の方法で家族 に連絡し、必要に応じて医療職からも説明の 機会を持てるようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	事業所内の研修にて緊急対応を学び、分か らないことをそのままにしないようフォローし ています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利 用者が避難できる方法を全職員が身につけると ともに、地域との協力体制を築いている	本年度は水害対策として想定されている水 害から事業所を守るよう建物を囲むようなブ ロック塀等の工事を施工しております。	年2回火災を想定した避難訓練を行っていま す。コロナ禍により、消防隊員の派遣がなく、 自主訓練となっています。非常災害時には、 民生委員や自治会長など、地域住民による 駆けつけ隊とも連携しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて著たいしたい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念・プライバシー等の研修を通し、尊厳を持ったお声かけを意識しております。 職員同士の業務連絡で個人名やケア内容が聞こえてしまいご利用者様のプライバシー侵害とならないよう配慮しております。	職員は個人情報保護、プライバシーの保護の資料を使っている研修を受けています。利用者のプライバシー侵害とならないよう排泄介助や入浴介助の際バスタオルで隠すなどの配慮をしています。又、入居前にエピソードを聞いたり、利用者本人からやりがいや楽しみを伺い、実践できるよう支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事内容や飲み物といった事から、今何が良いか今日は何にしようか、ということをお伺いするようにしております。難しい方でも温かい物冷たい物といったようお答え頂きやすい聞き方をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気によっては外に出たい、眠たいといったご本人様のご要望にお応え出来るようにしています。 食事についても一律に皆一緒ではなく、食の好みにお応えできるようようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容について、お忘れになっている時にはそっとお声がけしたり、ご本人様が着たい衣服を選べるようにご提案しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考え、調理し盛り付け、後片付けまでご利用者様と共に一緒に行っています。 また、不定期に行っているおやつ作りも楽しみしてくださっているご様子です。	食事は施設内で 献立を考え、調理し、盛り付け、後片付けと利用者と一緒にこなしています。食材の購入のみスタッフで行なっています。季節感を味わえるおやつ作り(お団子、甘酒など)やひな祭りなどの行事食でちらし寿司も一緒に作って楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェックは常に行い、水分量が少ない方にはお好みに合わせ水分を提供しております。 栄養が偏らないような配慮も感がありますが、食事量が少なくなっている方にはまずは召し上がっていただくようにお好きなもの召し上がってもらえたものを共有し工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアが行えるようにお声がけを行っております。 歯磨きを嫌がられる方には何が嫌なのかを考え、無理強いせず行って頂けるよう道具や声掛けを工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて著たいしたい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを理解し、トイレでの排泄を行えるようにお声がけ等しています。また、仮に失敗してしまったとしてもご自身で更衣し汚れた物を洗濯にお出し頂けるようにもお声がけ工夫しております。	入浴排泄一覧表を使い職員が利用者の排泄パターンを理解し、トイレで行えるよう声かけしています。失敗した際は利用者自身で更衣し、汚れ物を洗濯に出してもらうような声掛けもしています。布パンツ使用の3名の利用者を、尿意便意の様子を見て支援しています。	布パンツ使用者は9名中3名との回答ですが、紙パンツ使用であっても、排泄の自立を支援するために、声かけ以外に出来る他の創意工夫を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握やお通じに良い食材を提供するようにしています。 また、水分量が少ない方が召し上がって頂きやすい飲み物を職員間で共有し提供しております		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の間隔によってお声がけするようにしておりますが、ご希望や好みのタイミングをお話やご様子から把握して個別に支援しています。	入浴希望はいつでもできますが、拒否があった場合は無理せず、週2回は必ず入っていただくようにしています。言葉での確認が難しい利用者には、異なる時間帯で入浴した場合の様子(穏やかさや快不快の表情)をケース記録し申し送りにて職員同士共有しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	横になりたい、疲れているといったご様子に合わせて日中でも休んで頂けるようお声がけしております。眠りに影響する日中の活動、夕方に入浴すると夜間ゆっくり眠れるといったその方の習慣や好みにも配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝昼夕就寝前の薬の配薬をファイルに貼付しておこなっていますが、そこに処方されているお薬の名前、効果を記載するとともに副作用として留意する点も記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲酒、喫煙習慣がある方が、継続出来るようにご支援している。 また、何か自分が役に立ちたいと思ってくださっているお気持ち、タイミングを大切に家事を一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のコンビニでの買い物希望に沿って行っている。 また、お正月には元々お住まいになられていた辺りの神社をコースに取り入れドライブにて初詣の雰囲気を感じて頂いた。	3名の利用者が希望する近隣のコンビニでの買い物を支援しています。車を利用しての外出は、お正月に神社をコースに取り入れたドライブやお花見で外出支援を実現しました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて著たいしたい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行かれた際にはご自身でお支払いをして頂けるようにご支援している。 最近では近くのコンビニで使える電子マネーを所持されているご利用者様もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればご家族様とお電話をさせて頂いております また、結果としては実現していませんが、耳が遠い方であってもビデオ通話であればご家族様にお話してビデオ通話ができるよう仕方お伝えしご支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内やリビングから目に入る庭に花を植え心地よい空間になるようにしております。また、季節ごとの行事にあわせた飾りつけもおこなっております。 室温について椅子に座っておられるご利用者様と動いている職員では感じ方が違うことに留意して温度計を設置しています。	洗濯物の片付けや玄関掃除など、職員から利用者と一緒にやりますか?と気軽に声を掛け、世間話をしながら利用者それぞれが役割として楽しんで出来るよう支援しています。庭に花を植えたり、甘夏や梅を収穫する楽しさを味わえたりと、利用者の活動場面が多くなるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場所が固定であることで過ごしやすくなる方、近くに気の合った方がいて欲しい方などその方のご様子に合わせて工夫をしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にご入居の際には出来るだけ使用されていた物をお持ちいただくようお願いしております。配置についても職員が決めるのではなくご本人様ご家族様と相談し、実際に住まれた後にご様子をお伝えして工夫しています。	和室と洋室があるため、空室が出た際、現在入居中の利用者に快適に過ごせる部屋の希望を家族に相談することがあります。備品の配置は職員が決めるのではなく、利用者や家族と相談して行い、入居後の変更希望にも対応しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線には物を置かないようにし、段差・トイレには目印や表示をつけて気付いてもらいやすいように工夫しております。		